

擬似言語演習問題 文字のカウント

次のプログラムの説明及びプログラムを読んで、プログラム中の□に入れる正しい答えを解答群の中から選べ。

【プログラムの説明】

- (1) この副プログラムは、配列に格納された文字列中の各文字数をカウントしそれぞれの文字の出現個数を出力するプログラムである。
- (2) 副プログラムに渡される配列に格納されている文字は、英字小文字（'a'～'z'）と文字列の終了を表す'#'のみであり、それ以外の文字は格納されていない。
なお、配列の最後に格納されている文字'#'は、文字数カウントの対象とはならない。

【実行例】

副プログラムに渡される配列の内容が図1の場合、出力結果は図2のようになる。

図1 副プログラムに渡される配列

g	i	j	i	g	e	n	g	o	#
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

図2 出力結果

e	1個
g	3個
i	2個
j	1個
n	1個
o	1個

【擬似言語プログラム】

- 副プログラム名:文字のカウント(文字列[])
 - 文字型:strArray[]
 - 文字型:engArray[]={ 'a','b','c','d','e','f','g','h','i','j','k','l','m','n','o','p','q','r','s','t','u','v','w','x','y','z' }
 - 整数型:count[26], i,j
 - 手続:出力(*moji*, *count*)
 { *moji*で指定した文字と*count*で指定した個数を表示する }

